

学校教育目標	○考える子（自ら課題を見つけ、考え、解決できる）「なるほど」 ○やりぬく子（粘り強く学んでいける）「できる」 ○明るい子（笑顔で元気に挨拶できる 仲間のよさを認め合える）「ありがとう」			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○家庭や地域から信頼される学校 ○学ぶ喜びを感じる児童 ○学年経営を軸にしたチーム力を高め、多様な児童理解による教育の推進
前年度までの本校の現状	成果	<成果> ・「教科担任制」の校内研究を通した、教員一人一人の授業力、専門性の向上。 ・OJTを活用した若手教諭の人材育成および児童指導力や保護者対応力の向上。 ・特別支援教室巡回指導教員、スクールソーシャルワーカー、はあとポート等との連携と多様な児童理解。			課題 <課題> ・書画カメラの活用、学習端末の利活用と情報教育についての共通理解。 ・にしこスタンダードや学習のやくそくを基にした、学習規律の徹底と全校で共通した授業の展開。 ・教職員の共通理解に基づいた児童への支援や健全育成を図るための関係機関との連携。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・全校漢字、算数テストの実施と分析 ・委託業者による放課後補習教室の実施 ・ミライシードの活用 ・各教科における探求的な学習を重視した授業改善 課題の設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現の学習過程を実施 ・教科担任制の効果的な運用と段階的な導入 →上学年…教科担任制 下学年…授業交換 ・「学習のやくそく」を各教室に掲示、学習規律の徹底	・漢字テスト、算数ベーシック診断テスト全員実施と分析…年間2回実施、平均正答率漢字9割以上、算数8割以上 ・各学級4～5名の児童を対象に毎週1回放課後補習教室を実施…全体の出席率9割以上 ・ミライシードの活用…全学年、実施率10割 ・月1回の学力向上委員会において、板書カードや1マス・1行マグネットを毎日授業で使用しているか確認する。 ・教科担任制による指導を通して児童一人一人の学力の向上を図る…児童アンケートで教科担任制や授業交換についての肯定的な意見8割以上 ・学習規律に関する児童アンケートの肯定的な回答…8割以上	B	B	B	○ミライシードのドリルパークの日々の取組は学年による差はあるが、定着しつつある。 （一人あたりのアクセス数8回、2回） ○板書カード等の活用が定着しつつある。 ○学年経営の視点を大切にし、教科担任制による指導、授業交換による指導の充実を図っている。児童アンケートの「学級目標や自分のめあてについて、続けて取り組もうとしていますか。」の項目では9割5分の児童が肯定的に評価していることから、担任以外の教員が指導にあたっても自己の目標やめあてに対して積極的に取り組もうとしている態度が見られる。 ○児童アンケートより、授業中の姿勢や自分の考えを発表することについては、8割程度の解答で少し課題は残るが、学習規律に関するほとんどの項目で9割以上の肯定的な回答となった。 ○「学習のやくそく」を全教室に掲示している。学級によって定着度は異なるが、学習規律の共通理解が図れつつある。 ●2～6年生の児童において、計算テストの平均正答率8割を超えたのは3つの学年、漢字テストの平均正答率9割を超えたのは、2つの学年である。 ●放課後補習教室ではほぼ10割の児童が出席できているが、部々の課題に達した学習内容を再検討し改善していく。2学期からは対象児童を増やし、定員が満たされるようにする。	A	・ミライシードのドリルパークの活用については、図書資料を使っでの学習と両輪で推進を図ってほしい。 ・学習の理解が進んでいる児童へ発展的な課題を用意する対応を進めてほしい。 ・学習規律を守ることがなぜ大切なのかを児童に丁寧に指導していくことで、さらなる徹底が図られると考える。 ・学習は児童に夢と幸せを与えることを伝えてほしい。	B	○年間を通してミライシードのドリルパークを活用して習熟を行うことができた。（実施率9割5分以上）学校全体で4月～11月末までの一人当たりの平均問題解決数は3846回であった。月平均480回なので学校全体で学力向上に努めることができた。 ○各教科で探究的な学びを行うためにオクリンク等を活用することができた。 ○学習のやくそくが各学級で定着しつつある。 ○放課後補習教室により、参加児童のテストの成績が向上してきた。（出席率9割以上）朝に寄した指導をさらに進めていけるよう、一人一人の課題について委託業者と連携を図っていく。 ○学習規律に関するアンケートの児童の肯定的な回答は8割8分であった。8割以上は達成したが、中間に比べて若干低下した。理由としては、児童自身が自己に対する見方が厳しくなったこと等が考えられる。 ○5、6年は週3時間、3、4年は週1時間ずつの教科担任制を実施できた。 ●全校漢字テストでは、5、6年生が平均正答率9割以上を達成できなかった。学習を行う上で漢字の習熟は必須なので、確実に読み書きができるように今後も習熟を図っていく。 ●全校算数テストは区の学力調査等があり、継続して改善を把握することが困難になった。 ●教科担任制による授業交換についての肯定的な意見、9割1分。	A	・小学校の学問は高度なものだったと最近強く感じる。一生のうちに一度しかない学びの機会を大切にしてください。 ・継続的に学習規律に対するアンケートがされていて、自己肯定感に関心が向くと思う。 ・国語の学習では、事実と意見を正しく捉えて学習していくことが大切である。よびYOMUワークシートの取組は大変よいと思う。 ・一人一人の学習意欲を高めるために何ができるか、その手立てをしっかりと考えていく必要がある。 ・外国籍の児童に対して、家庭学習等での適切な支援が必要である。	・全校漢字テスト、算数テストの平均点9割以上、達成率8割5分以上をめざす。算数テストについては、区の学力調査等の結果からも実態を把握し、基礎基本の学力の定着を図っていく。 ・ミライシードのドリルパークの活用は10割をめざし、一人一人の課題に沿った効率の良い使い方を進めていく。 ・家庭学習と連携し、予習・授業・復習の学習サイクルの定着を図っていく。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・総合的な学習の時間や各教科と関連させた、調べ学習等における図書資料の積極的な活用 ・総合的な学習・読書科等において思考ツール等を用いた探究的な学習の実施 ・図書館整備を行う図書館整備ボランティアを募集し、整備を進めていく。	・学習機能としての図書館活用、児童の利用率の向上…各学期1回以上の利用 ・思考ツールを用いた学習の実施…各学期1回以上 ・ボランティアの決定、整備計画の立案 ・ボランティアによる図書館整備…年間5回以上	B	B	B	○全学級1学期に1回以上図書館を利用している。2学期以降は、月1回以上使用している。 ○各学年、各学級において、思考ツールを用いた学習を定期的に行えている。 ○読み聞かせボランティアは昨年度に引き続き今年度も各学級で学期に1回実施できている。 ○図書室整備ボランティアも7月より週1回、図書支援員と一緒に活動を始め、整備を進めている。	A	・西小松川小学校の歴史調べ等にも積極的に活用してほしい。 ・自ら問題を見出し解決する力を身に付けるために、図書資料の活用は有効である。	B	○総合的な学習の時間、国語科や読書科で図書館資料を活用することができた。 ○図書館司書、図書館整備ボランティア(7名)の支援により、学校図書館の環境を整えることができた。学級文庫についても定期的に更新していけるようにする。 ○読み聞かせボランティア(10名)の活用により、児童が読書に親しむ機会を増やすことができた。	A	・親が本を読むと子供も本を読むようになると思う。親子で一緒に本に親しむことができるようなイベントがあるとよい。 ・今まで図書館整備ボランティアや読み聞かせボランティアを経験した方に声を掛けることで、協力していただける人数が増えていくのではないかな。	・読書科と関連させた総合的な学習の時間や各教科の年間指導計画の見直しを図り、図書資料を積極的に活動できるようにしていく。 ・読み聞かせの日数を増やしたり、時期を検討したりし、読書に親しむ機会を多く設けていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	・体育学習スタンダードを活用した授業改善 ・なわ跳びチャレンジの実施（なわ跳び出前授業、各学期のなわ跳びウィーク） ・短縄（リズム縄跳び）、長縄、ランニング月間の実施	・体育学習における校内研修を年間3回実施する。 ・月1回の体力向上委員会において、体育学習スタンダードの見直しと改善を図る。 ・体力テストの結果…各学年8種目中4種目以上、都平均を上回る。 ・短縄、長縄、ランニング月間の実施…各年間1回（期間：1ヵ月程度） ・短縄のなわとび名人…各学年1割以上	B	A	B	○体力調査前に体育学習や体力テストについての校内研修を実施した。 ○夏季休業中に講師を招聘し、ICTを活用した体育学習（体づく運動や跳び箱運動）の実技研修会を行った。日々の指導に生かしていきたい。 ○年度当初に体育学習スタンダードの共通理解を図った。2学期以降に実施状況の確認や更なる改善を図れるよう、体力向上委員会を中心に検討していく。 ○1学期短縄チャレンジで2週間、なわとび運動に取り組むことができた。なわとび名人「ふっくん」による、「なわとび教室」も実施され、2学期以降のなわとびチャレンジでも意欲をもって取り組むことができると考える。 ●なわとび名人はまた1学期なので各学級2名前後で1割には満たない。	A	・日々の体育学習や運動会に向けての活動等で、児童一人一人の体力の向上を図ってほしい。	A	○体力テスト・外部講師によるICTの活用・長縄の実技研修を行い、児童の技能の向上につなげることができた。 ○体力テストでは、4種目以上で都平均を上回る数値を出すことができた。 ○短縄、長縄、ランニング月間を2週間程度ではあるが、年間1回以上実施し、練習を通して記録の向上につなげることができた。 ○学期に1回以上短縄ウィークを設け、各学年2割以上の名人を出すことができた。 ○外遊びをすすんで行っているかのアンケートでは、肯定的な回答が82％で、前年度の71％よりも向上した。 ●1学期では体育学習スタンダードの検討と改善を図ることができたが、2学期以降は中々検討することができなかった。日々の体育の授業における課題点を再度共有し、検討していきたい。	A	・体力テストで課題があった種目について、どのように高めていくのか具体的に考えていく必要がある。 ・ゲーム的に児童の体力を高めていることはとてもよい。 ・体力を高める必要性、体育の学習の重要性を児童に正しく理解させることは大切である。 ・遊びの中で体力を高められるよう、外遊びをすすんで行ってもらいたい。	・日々の授業では、教師は伴走者としての意識を高め、児童主体の学習になるよう授業改善を図っていく。研修やOJTを通して校内で共有していく。 ・体育科学習スタンダードの周知、全学級の定着を目指す。

共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> - ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 - エンカレッジルームの活用促進 - 副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	- ユニバーサルデザインに関する掲示物の作成 - 誰もが分かりやすい学習環境の整備（全学級に配備された書画カメラや学習端末等） - 教員一人一人が特別支援教育についての理解を深め、指導に生かす - 児童や保護者の特別支援教育への理解推進に努める - エンカレッジルーム活用促進に向けた教員の分担 - 個別指導計画に基づく指導力の向上 - 副籍交流に向けた特別支援学校との連携	- 学校評価アンケートにおける特別支援教育に対する肯定的な回答…8割以上 - 書画カメラや学習端末を活用した授業を実施…全学級1日1回以上 - 特別支援に関する研修を年2回以上実施 - 特別支援教育の理解推進に向けた授業を2年生等で実施 - 入学説明会や保護者会での特別支援コーディネーターや巡回指導教員による説明 - 巡回指導教諭や心理士、SCと面談…年間3回実施 - 毎時間のエンカレッジルームの担当教員を配置 - 配慮を要する児童の個別指導計画の作成と改善…各学期1回 - 年1回以上の交流学習の実施	A	B	B	○書画カメラや学習端末を活用した授業を1日1回以上、どの学級でも行うことができている。 ○特別支援に関する研修を1学期に1回、区内特別支援教室巡回指導教員を講師に招き、実施した。 ○「特別支援教育情報」にて、巡回指導員による説明をし、理解推進に努めている。保護者については、2学期以降の入学説明会や保護者会での特別支援コーディネーターや巡回指導員による説明を実施する予定である。 ○巡回指導教員や心理士、SCとの面談は特別支援教室在籍児童について、担任と年度当初と学期末に実施した。 ○毎時間のエンカレッジルームの担当教員を配置して、支援にあたった。 ○配慮を要する児童の個別指導計画の作成と改善を学期当初と学期末に行った。 ●教員一人一人の特別支援教育についての理解を一番深めていく必要がある。	A	- 特別支援教室の役割やそこで学んだことがどのように児童の進路につながっていくか等を、保護者に丁寧に伝えていく必要がある。 - すぐに結果が出ない項目も多いが、継続した取組によって、一人でも多くの児童が特別支援教育への理解を深められるようにしてもらいたい。	B	○教室内の掲示物や学習環境の整備に努めることができた。 ○心理士、SC、巡回指導教員との連携により、児童理解に努めることができた。 ○エンカレッジルームの活用促進に向けて教員で分担をして対応することができた。 ○個別指導計画を作成し、一人一人の児童に対応することができた。 ○1月1日に巡回指導教員が2年生に向けて授業を行い、児童や担任の特別支援教育に対する理解が深まった。 ○学校評価保護者アンケートにおける特別支援教育に対する肯定的な回答…76%（昨年度68%） ○12月の保護者会で特別支援教育について、動画をを用いて説明したことによって、特別支援教育についての理解が深まり、通室に向けて前向きに考える家庭があった。 ○1月に区内巡回指導教員による学級における特別支援教育についての研修を行い、年2回の研修を実施できた。 ●特別支援教育についての教員の理解をさらに高めていく必要がある。	A	- 急がず、だんだんと理解を深める対応を進めていただきたい。 - 特別支援教育の理解推進に向けた授業を2年生で行うことは効果的である。 2年生の普通級の学習に参加させていただきました。その際に、学年の先生が同じ考えで指導し、児童との信頼関係が築けていると感じました。また、活動中に児童同士が助け合う様子が見られました。 - 外国籍の児童同士の助け合いはとてもよいと思った。 - 外国籍の児童の母国語で全員が挨拶できるよう取組を広めていくのもよい。 - 配慮を要する児童のよさが認められていて素晴らしいと思う。	- 特別支援教育に対する理解を高めていけるように、校内研修をさらに充実させ、理解の共有を図っていく。 - 巡回指導教員による授業や保護者会での説明等を充実させ、保護者や児童の特別支援教育に対する理解を深めていく。
不登校・いじめ対応の充実	<子どもたちの健全育成に向けた取組> - 不登校対策の実施・充実 - 教育相談の強化 - hyper-QUの活用 - SNS学校・家庭ルールの見直し	いじめ防止対策委員会や不登校対策委員会、生活指導タ会による情報共有を行い、いじめや不登校の未然防止と早期解決につなげる	- いじめ防止対策委員会、不登校対策委員会の実施…毎月1回 - 生活指導タ会の実施…毎週1回 - いじめ調査の実施（年間3回）	A	A	A	○いじめ防止対策委員会、不登校対策委員会を毎月1回実施した。 ○生活指導タ会を毎週1回実施し、教職員の情報共有に努めている。 ○いじめ調査を1学期に1回実施し、聞き取りを実施した。個別指導等を行ったり、保護者との連携を図ったりして改善に努めた。 ●いじめや児童の問題行動について、さらなる早期発見と早期解決を意図した初期対応が必要である。いじめ未然防止に向けた授業の充実を図る。 ●授業時のタブレット使用ルール（話を聞く時は画面を閉じる。袋に入れて机の脇にかける等）を守りたい。	A	- いじめは絶対にいけないという意識を高め、被害を受けている児童に寄り添う指導を大切にしてほしい。 - 薬物乱用防止教室や保健の授業を活用し、薬物の危険性等を丁寧に指導していただきたい。 - 常に目を光らせて児童の変化に気づき、早期対応をしてほしい。	A	○いじめ防止対策委員会や不登校対策委員会、生活指導タ会、ふれあい調査等で情報交換を行うことにより、いじめや不登校の早期発見、早期対応を行うことができた。 ○授業時のタブレット使用ルール（話を聞く時は画面を閉じる）の児童アンケートでは、肯定的な回答が92%であった。今後も全教職員との連携をとり、学期の始めや終わりに各学級でのタブレットの使用ルールについて、丁寧に確認する時間を確保し、さらなる徹底を図る。	A	- すぐにいじめに気づけるような取り組みを考えていく必要がある。 - 不登校については、小中学校間の情報共有を密にしていける必要がある。 - 不登校の要因を明らかにして、今後も児童に寄り添った対応と家庭との連携が必要である。	各学級の生活指導についての記録を細かく残していき、全教職員で対応していく意識を高めていく。
学校（園）の開かれた地域社会の実現	<自校（園）の取組の積極的な発信> - 学校（園）ホームページの充実等 - 学校（園）公開の実施・充実	- 行事や児童会活動、日々の教育活動について、随時学校ホームページに掲載する。 - 学校公開において、各教科や総合的な学習の時間、専科授業等をバランスよく公開し、公開アンケートを実施・活用する	- 各行事や児童会活動についての学校ホームページの更新…実施後3日以内に掲載する。 - 各学年の教育活動についての学校ホームページの更新…週に1回以上 - 学校公開アンケート…年間3回実施 - アンケートにおける肯定的な回答…8割以上	B	B	B	○各行事や児童会活動についての学校ホームページの更新を毎日実施している。 ○学校公開アンケートにおける肯定的な回答が8割以上であった。 ●週2回以上学校ホームページの更新を行っている学年がある一方で、更新がなかなかできていない学年もある。更新頻度が学年によって隔りが見られるので、全体として向上させていく。 ●学校公開アンケートを1学期の学校公開後にFormsを使って実施した。回答数が少ないのが課題である。回収結果を報告し、回収率を高める工夫を検討していく。	A	- ホームページの更新は楽しみにしている。今後も定期的に更新していただきたい。 - 学校の歴史等の資料をホームページに残していくことはとても大切な取組である。 - 個人情報の取り扱いには気を付けていただきたい。	B	○行事や児童会活動、日々の教育活動について、随時学校HPに掲載することができた。 ○学校公開で各教科・領域をバランスよく公開することができ、多くの方が参観に来られた。 ●HPの更新については学年による差があった。	A	HPの定期的な更新は大変ですが、がんばっていただきたい。	- 各行事や活動について、ホームページに掲載するタイミングが学年ごとに差が出ないように、配慮していく。 - HP更新についての仕事負担を再確認し、2週に1回の更新をめざす。
教育の特色ある展開	<地域資源を活用した学習> 年間指導計画に基づく取組の実施	各教科や総合的な学習の時間等において、地域人材を活用した学習やグリーンプラン推進校としての環境学習を取り入れる	地域人材を活用した学習やグリーンプラン推進校としての環境学習の実施…各学年、年間1回以上	B	A	B	○地域人材を活用した学習やグリーンプラン推進校としての環境学習を計画している。9月に2年生で子ども未来館による「ふるくにトンボを呼ぼう」の学習を行った。他学年も2学期以降に本格的に実施する予定である。	A	グリーンプランの推進校としての活動報告を楽しみにしている。	A	○地域人材や専門家ゲストティーチャーとして招き、各教科の専門的な観点から学ぶことができた。 （1年…「秋」を探そう。2年…学校の生きものを探そう。3年…小松菜博士になる。4年…バリアフリー体験。5年…フロジェクションマッピング。6年…原爆先生の特別授業）	A	- 地域資源を活用した学習、取組はすばらしい。 - 様々な児童が活躍できる機会があってよい。	年間を通して、どの単元で地域人材を活用した授業を実践していくことが効果的なのが検討し、計画していく。
	<兄弟学年班活動の充実> 特別活動全体計画に基づく取組の実施	- 兄弟学年班遊びの実施 - 兄弟学年班によるなかよし読書や全校選定等の実施	- 兄弟学年班遊びを学期に1回、年間3回実施 - 兄弟学年班によるなかよし読書を年2回実施 - 児童アンケートにおける兄弟学年班活動の肯定的な回答…8割以上	A	A	A	○兄弟学年班遊びやなかよし読書は、1学期に1回計画的に実施し、児童の意欲的な姿が多く見られている。 ○児童アンケートにおける兄弟学年班活動の項目「兄弟学年班活動（兄弟学年班遊び、なかよし読書、全校選定）にすすんで取り組んでいますか。」において、9割7分の肯定的な回答であった。	A	兄弟学年班活動の意義は大きい。今後も異学年交流による活動を推進し、地域にも発信してほしい。	B	○年度当初の全校選定、各学期に実施する兄弟学年班遊び、なかよし読書などを通して異学年交流を行うことにより、上級生は下級生への思いやりを、下級生は上級生に対して敬う心を育むことができた。（児童アンケートでは、兄弟学年班の活動について、9割4分の肯定的な回答が得られた。） ●兄弟学年班での交流の回数が全体的に少なく、関係が十分に築けていないグループも見られた。	A	感染症などの心配もある中で、異学年交流における様々な取組ががんばっていると思う。	兄弟学年班活動の顔合わせや遊び、読み聞かせの回数や時期を検討し、内容の充実を図っていく。